

テーマ 16 決算の手続き（Ⅰ）

決算のあらましと精算表の記入方法，有価証券の決算整理について見ていきます。

① 決算とは

日常の手続きを行うだけでは，企業の財政状態や経営成績は明らかにはなりません。そこで，決算という手続きを行う必要があります。

1. 決算の意味

決算とは，会計期間ごとに勘定の記録を整理して，帳簿を締め切り，貸借対照表と損益計算書を作成する一連の手続きをいいます。

2. 決算と決算日

一会計期間の末日を決算日といい，個人商店では決算日が 12 月 31 日と決められています。なお，株式会社の場合は特に決まりはありませんが，大半は 3 月 31 日です。

決算の手続きは決算日当日にすべて行うのではなく，個人商店の場合，決算日（12/31）以降，確定申告の申告期間（毎年 2 月 16 日から 3 月 15 日）までの間に終了させます。

② 決算の手続き

ここでは，日常の手続きから決算の手続きについてその概要を見ていきます。



これまで見てきた期中取引は日常の手続きとして，すべて総勘定元帳に転記され，さらに検証のために試算表が作成されます。

これから見ていく決算の手続きは，決算整理を通じて企業の適正な損益計算や財政状態を示すための手続きをいいます。

③ 決算整理

決算整理とは、適正な損益計算を行うために必要な処理であり、重要な手続きの一つです。

1. 決算整理とは

決算は、総勘定元帳の勘定の記録に基づいて行われます。しかし、この勘定の記録の中には、決算日現在の実際有高や、一会計期間の収益や費用の正しい発生額を示していないものがあります。そこで、決算に当り、これらの勘定を整理して、正しい金額を示すように修正しなければなりません。この手続きを決算整理といいます。

また、決算整理を必要とする事柄を決算整理事項、決算整理に必要な仕訳を決算整理仕訳といいます。

2. 3級で学習する決算整理事項

3級検定試験では、以下7つの決算整理事項が頻繁に出題されているので、十分に理解しなければなりません。

- ・ 現金過不足の決算整理
- ・ 消耗品の決算整理
- ・ 売上原価の計算
- ・ 貸倒引当金の設定
- ・ 有価証券の評価替え
- ・ 固定資産と減価償却費
- ・ 費用・収益の見越しと繰延べ

④ 精算表の作成

精算表の作成問題は3級検定試験でも頻出問題ですので、その記入方法については必ず理解するようにして下さい。

1. 精算表とは

決算整理前の残高試算表から、損益計算書と貸借対照表とを作成する過程を一つの表で示したものを、() といいます。その作成目的は、決算手続の検証や当期の営業成績を早期に知ることにあります。

精算表の項目について簡単に、説明します。

精 算 表								
勘定科目	② 試算表		③ 修正記入		④ 損益計算書		⑤ 貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方

① 勘定科目欄

- ・ 期中の取引や決算整理仕訳で使用された勘定科目を記入します。
(例) 現金, 売掛金, 買掛金, 給料, 売上など)

② 試算表欄

- ・ 残高試算表の金額を記入します。

③ 修正記入欄

- ・ 決算整理仕訳の金額を記入する。

④ 損益計算書欄

- ・ 試算表欄に記入された金額と修正記入欄に記入された金額を加減して, 残高を損益計算書の借方・貸方のいずれかに記入します。

⑤ 貸借対照表欄

- ・ 試算表欄に記入された金額と修正記入欄に記入された金額を加減して, 残高を貸借対照表の借方・貸方のいずれかに記入します。

2. 精算表の作成

精算表は期中の取引の内容と決算整理事項の内容で構成されています。この2つの内容を合わせることで初めて会計期間の企業の「**経営成績**」と「**財政状態**」がわかることになります。

簿記3級試験では, 答案用紙に以下のような形式の精算表が記載されています。

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現 金	24,000							
売買目的有価証券	40,000							
売 掛 金	53,000							
繰越商品	9,000							
備 品	14,000							
買 掛 金		15,500						
貸倒引当金		1,300						
備品減価償却累計額		8,500						
建物減価償却累計額		12,000						
資 本 金		83,300						
売 上		120,000						
受取利息		2,600						
仕 入	74,000							
給 料	28,000							
支払家賃	1,200							
	243,200	243,200						
貸倒引当金繰入								
有価証券()								
減価償却費								
()家 賃								
()利 息								
当期純()								

勘定科目欄と試算表欄が既に記入されており、簿記3級試験では、残りの「**修正記入**」，「**損益計算書**」，「**貸借対照表**」を記入していくかたちになります。勘定科目を見ていただくと、「有価証券（ ）」，「（ ）家賃」というふうに、勘定科目に「（ ）」が追加されています。ここも、皆さんが記入するようになっています。勘定科目欄の一番下は、当期純（ ）になっています。ここには、「利益」か「損失」のどちらかを入れるようになっています。

8 桁精算表の作成問題は、以下の手順で解いていきます。

- ① 期中の取引内容を把握するために残高試算表に記入されている勘定科目と金額を、精算表の勘定科目欄と試算表欄に記入します。
- ② 決算整理事項に基づいて、決算整理仕訳を行い、該当する勘定科目の金額を修正記入欄に記入します。
- ③ 試算表欄に記入された資産・負債・純資産の金額に、修正記入欄の金額を加減して、貸借対照表に移します。このとき、加減算については次のとおり行います。
 - ＜1＞ 借方同士、貸方同士は加算します。
 - ＜2＞ 貸借逆のものは減算して、残高があるほうに移します。
- ④ 試算表の収益・費用の金額に修正記入欄の金額を加減して、損益計算書欄に移します。
 - ＜1＞ 借方同士、貸方同士は加算します。
 - ＜2＞ 貸借逆のものは減算して、残高があるほうに移します。
- ⑤ 期末修正により追記された各勘定の金額も、損益計算書欄または貸借対照表欄へ移します。
 - ＜1＞ 収益の勘定は損益計算書欄の貸方へ
 - ＜2＞ 費用の勘定は損益計算書欄の借方へ
 - ＜3＞ 資産の勘定は貸借対照表欄の借方へ
 - ＜4＞ 負債・純資産の勘定は貸借対照表欄の貸方へ
- ⑥ 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、差額を当期純利益（または当期純損失）として、合計金額の少ない側に記入します。

⑤ 有価証券の評価替え

株式や債券などの有価証券は、市場（証券取引所）の売買時点における時価（市場価額）を基準にして売買されます。

そこで、決算時に所有する有価証券の本来の価値を帳簿に示すため、帳簿価額と時価が異なるときは、その帳簿価額を時価に修正する必要があります。これを有価証券の評価替えといいます。

その際、評価替えの対象となる売買目的有価証券勘定を減額または増額し、その結果生じる差額を有価証券評価損勘定（費用の勘定）または有価証券評価益勘定（収益の勘定）で処理します。なお、この評価替えを認める基準を時価法（時価基準）といいます。

(1) 値下がりしたとき

帳簿価額よりも時価が値下がりしたときは、その分だけ売買目的有価証券勘定の貸方に記入し減少させるとともに、有価証券評価損勘定の借方に記入します。

設例 16-1

12月31日、第1期決算において、当社が所有している福岡商事の株式100株について評価替えを行うことにした（取得原価8,000、時価7,900）。

（有価証券評価損）100

（売買目的有価証券）100

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売買目的有価証券	8,000			100			7,900	
有価証券評価損			100		100			

(2) 値上がりしたとき

帳簿価額よりも時価が値上がりしたときは、その分だけ売買目的有価証券勘定の借方に記入し増加させるとともに、有価証券評価益勘定の貸方に記入します。

設例 16-2

12月31日、第5期決算において、当社が所有している札幌商事の株式100株について評価替えを行うことにした（取得原価9,000、時価9,050）。

（売買目的有価証券）50

（有価証券評価益）50

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売買目的有価証券	9,000		50				9,050	
有価証券評価益				50		50		

練習問題

次の有価証券について決算整理仕訳を行いなさい。

(1) A社株式について4,000円の評価損を計上する。

(2) B社株式（帳簿価額58,000円）を時価63,000円に評価替えする。